

お客様本位の業務運営に関する取組み状況

当社は、「お客様本位の業務運営に関する方針」に基づく取組み状況を公表することとしております。

このたび、2019年の「お客様本位の業務運営に関する取組み状況」につき、以下のとおり公表いたします。

また2019年の取組み状況の公表において、新たに定量指標（KPI）も公表いたします。

< 定量指標（KPI） >

① 運用資産額の推移

なお定量指標（KPI）は、弊社ホームページ「お客様本位の業務運営に向けて」 - 「1. 基本方針」 - 「定量指標（KPI）」をご覧ください。

1. お客様の最善の利益の追求

(1) 商品開発・運用全般の高度化

① 投資環境・市場の調査

2018年	ファンドマネージャーによる投資先企業との対話(エンゲージメント)、いちよし経済研究所アナリストとのミーティングの継続実施
-------	--

② 運用のノウハウの向上、運用リスク管理の高度化

2018年	①従来のもよりの確なリスクコントロールと期待リターンの向上を意図したリスク抑制型の投資信託を組成（適格機関投資家向け私募） ②従来の中小型株ロングオンリー投資信託に加えて、信用取引を活用したロング&ショート投資信託を開発（適格機関投資家私募&少人数私募）
2019年	①従来信用取引を活用したロング・ショート投資信託に加え、さらにキャッシュポジションの一部を日経平均株価指数等への投資を加味したロング・ショート投資信託（適格機関投資家私募）を組成。 ②従来信用取引を活用したロング・ショート投資信託に加え、さらにキャッシュポジションの一部を日経平均株価指数等への投資を加味したロング・ショート投資信託（適格機関投資家私募）を組成

2. 利益相反の適切な管理

利益相反管理に関する方針・規程に則り、利益相反に抵触する可能性がある取引等をモニタリング、検証を継続実施。

3. 分かりやすい情報提供

2018年	<p>(1) 目論見書、販売用資料の見直し</p> <p>①わかりやすい目論見書を目指した内容等の見直しを継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年3月発行の交付目論見書から、「ファンドの費用・税金」について、お客様の理解をより容易にするため金額表記等の説明を追加 <p>(2) ホームページの再構築（効率化と可視化）（2018年2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインページに各投資信託の主要コンテンツ（イメージ画像）を作成し、お客様が投信情報に容易で速やかにアクセスできる環境を整備 ・投資信託の運用状況ページに基準価額の推移グラフを新設するとともに、前日比騰落率等の情報を追加
-------	--

4. お客様にふさわしい商品・サービスの提供

2018年	<p>(1) 運用機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用部門に調査機能を持つ部署を設置し、運用体制を充実 <p>(2) 販売会社の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親会社を除く販売会社のみで構成された中小型株の公募投資信託を初めて設定・運用
2019年	<p>(1) 人材面の増強</p> <p>運用体制強化のためファンド・マネージャーの増員</p>

5. 役職員に対する適切な動機付け

2018年	<p>(1) 運用ノウハウの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外商品への投資のスキルアップを目的としたパイロットファンド（外国籍投信を対象の私募ファンドオブファンズ）を設定し、運用ノウハウを吸収（継続中）
2019年	<p>(1) マネー・ローンダリング防止・テロ資金供与対策</p> <p>販売会社様向けデュー・デリジェンスの実施、リスク評価書の作成を通じ、継続的に関係者の評価ノウハウを吸収（継続中）</p> <p>(2) 内部統制と生産性の向上</p> <p>①管理態勢を改めて整備し、運用指図の電子化による業務効率化の取り組み</p> <p>②業務マニュアルを業務手順書とオペレーションマニュアルに分離し、生産性向上への取り組み</p> <p>(3) 発注システムのバージョンアップによる運用業務の効率化を実現</p> <p>(4) 人事制度の改革によりお客様第一の行動を実践する役職員が適切に評価される制度を導入</p> <p>(5) 外部研修を含む啓発プログラムへの参加</p> <p>投資信託協会、日本投資顧問協会及び外部監査法人等主催のセミナー・勉強会への参加による業界を取り巻く動向の把握</p>

以上